

令和3年3月8日
森林総合研究所四国支所

木材利用シンポジウム in 高知 2021 の開催報告

森林総合研究所四国支所では、木材の利用促進のために関係機関と連携して、表記のシンポジウムを開催しました。

1. 日時 令和3年3月1日(月) 13時20分～17時
2. 場所 高知県教育会館 高知城ホール(高知市丸ノ内)
3. テーマ 「多様な木材利用によるネットゼロエミッションへの貢献を目指して」
4. 参加者数 会場86名、オンライン配信80名
5. 開催主体
主催：四国土木木材利用研究会、高知大学防災推進センター、(公社)高知県土木施工管理技士会
共催：(公社)土木学会木材工学委員会、森林研究・整備機構森林総合研究所四国支所
後援：(公社)地盤工学会高知県地盤工学研究会

6. 概要

本シンポジウムは四国土木木材利用研究会が中心となり、主催・共催の各機関の連携協力により開催されました。今回は「多様な木材利用によるネットゼロエミッションへの貢献を目指して」というテーマで、木材の土木利用への促進を図るための様々な取り組み事例が紹介されました。各講演の概要は次の通りです。

講演1. 久保 光氏(福井県工業技術センター建設技術研究部)

「行政目線から見た木材利用」

公共事業における軟弱地盤での杭丸太の利用について、全国版の基準の考え方や先進的な取り組みを行っている佐賀県の考え方を整理して、杭丸太の特性を生かした設計方法を提案して、福井県での県道拡幅工事において軟弱地盤対策を行った事例が紹介されました。

講演2. 吉田 雅穂氏(福井工業高等専門学校 教授)

「丸太を用いた液状化対策」

地震の際に生じる液状化による建築物の被害を防ぐための対策として、木杭を打設して基礎構造物として設置することの方法を紹介し、木材が腐朽しにくい地下水位以下の地中に打設することの有効性が示されました。

講演3. 宮武 敦氏(森林総合研究所複合材料研究領域 チーム長)

「木材の土木利用としての木橋について」

木製構造物としての近代の木橋について建設実績を示し、実際に起きた落橋事故の事例と既存木橋の評価、および木橋の架け替えとライフサイクルコスト、長寿命化のための維持管理等について示されました。

講演4. 玉井 幸治氏(森林総合研究所森林防災研究領域 領域長)

「堰堤など防災施設での木材利用の現状と問題」

